

# 徳川家康の城 – 『極秘諸国城図』 より –

今年のNHK大河ドラマは江戸幕府を開いた徳川家康<sup>とくがわいえやす</sup>を主人公とする「どうする家康」です。

家康は三河国<sup>みかわのくに</sup>(愛知県)の岡崎城で生まれます。織田信長<sup>おだのぶなが</sup>や豊臣秀吉<sup>とよとみひでよし</sup>らと協力し、時には対立しながら戦国の世を終息させて、260年余り続いた平穏な世の中を築き上げた武将です。その人生では、数多くの城郭を造ってきました。

本展では、当館が所蔵する『極秘諸国城図』<sup>ごくひしょこくしろず</sup>の中から、家康に関わりのある城郭や築城した城郭の図面を紹介します。



江戸始図

## 家康が築いた江戸城<sup>えどじょう</sup>の最古級の絵図

徳川家康は征夷大將軍(将軍)となった慶長8年(1603)から諸大名を動員し、江戸城の大規模な拡張工事を行った。江戸城中心部は同12年(1607)に一応の完成を見る。本図は書き込まれた武家屋敷の組合せから、慶長12年(1607)から同14年(1609)までの江戸城を詳細に描く。松江開府の祖の堀尾吉晴<sup>ほりおよしはる</sup>(1611年没)や豊臣秀吉<sup>とよとみひでよし</sup>が使っていた「羽柴<sup>はしば</sup>」の名字を使用している大名の記載がある。



三州岡崎

### 家康が生まれた岡崎城 おかざきじょう

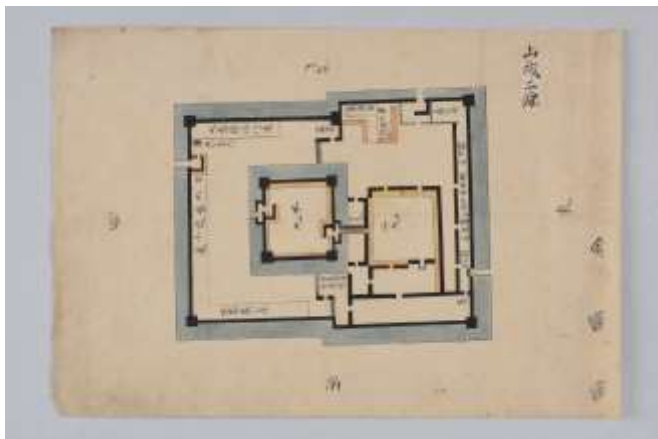
岡崎城は三河国岡崎（愛知県岡崎市）にある平山城で、家康の祖父である松平清康まつだいらきよやすが居城とした。家康は天文 11 年(1542)に岡崎城の二之丸で出生したと伝わる。元龜元年(1570)に家康が浜松城へ移るまで居城とした。家康が城主であったころは、石垣や天守はなく、湿地帯や丘陵など自然の地形を利用し、土塁や堀からなる城「土の城」であったと考えられている。



遠州浜松

### 家康と堀尾吉晴が城主であった浜松城 ほりおよしはる はまつじょう

浜松城は遠江国浜松（静岡県浜松市）にある平山城で、元龜元年(1570)に家康がそれまでの拠点であった岡崎城から移り、天正 18 年(1590)に江戸へ移るまで居城とした。岡崎城と同じく家康の在城時は「土の城」であった。本図のような総石垣の城郭にしたのは、家康の後に城主となった堀尾吉晴である。



山城二條

### 家康と豊臣秀頼が会見した二条城 とよみひでより にじょうじょう

二条城は山城国（京都市中京区）にある平城で、これまで足利氏や織田信長らが築城した。現存する城は、家康が慶長 8 年(1603)に京都警備や上洛の際の宿所として築城した。同 16 年(1611)には家康が大坂城の豊臣秀頼をこの城へ呼び出し会見した。本図の東北部には、「三輪一兵衛」という名があり、これは江戸時代前期に御殿番を務めた「三輪市郎兵衛」であろう。



茶臼山 御陣城

### 大坂城を攻めるために家康が布陣した山 ふじん

茶臼山城は摂津国（大阪市天王寺区）にある茶臼山に作られた臨時の城、陣城である。慶長 19 年(1614)に徳川軍と大坂城の豊臣軍が戦った大坂冬の陣に際して家康が築城し布陣した。また、翌年の夏の陣では、真田信繁（幸村）が布陣している。本図には、夏の陣で討死した本多出雲守忠朝の塔が描かれており、夏の陣以降の様子であることがわかる。